

美しい風景に出会えるまち

第3回 生活美観大賞



遠くに市街地を見渡せる



一つの絵画のような一体的な景観を呈する村上邸



お住まいの
村上召一さん

一つの家や敷地は、お隣やその周りにつながり、一つの景観となっています。そこに住む人は誰もがその景観をつくるデザイナーのひとりです。

家の中を快適に維持するように、わが家を見る目線を周辺に広げれば、何気ない取り組みが景観まちづくりにつながるものがたくさんあります。「いいところに住んでるネ」と、まちの魅力や価値をそんな言葉で褒められれば、素晴らしいことです。

第3回「ふるさと秦野生活美観表彰」のテーマは「うるおいや安らぎを与え、美しいまち並みを創り出している住宅」です。

大賞に選ばれた村上邸(戸川)は、市街地を望む高台に位置し、丹沢の借景を生かし、庭木や生垣、住宅が美しく調和しています。お住まいの村上召一さんは、「以前の住まいから移植したものなど、秦野に昔からある樹種で庭づくりを楽しんでいます。」と話し、道行く人々に安らぎを与えています。

第3回ふるさと秦野生活美観表彰の特別賞

特に紹介したい住宅の事例を「特別賞」としました。敷地が大きなくても、長い歴史がなくても、自分の住まいを良くして「いいところ」にしたいという思いは誰でも共通ではないでしょうか。

まちなみ形成部門



石垣と生垣の落ち着いた感じがこの地区らしい農家住宅の景観を現在に残しています。(蓑毛・K邸)



塀の石材と石垣、自然の樹木の配置が住宅地の景観を引き立てています。(堀川・Y邸)



視線の高さに合わせた立体感のある植栽は、緑豊かな地域づくりの模範となります。(鶴巻・A邸)



T字路の先に位置する立地を生かし、手入れのされた樹木が人々の目を引きまします。(堀川・M邸)



統一した色調の塀と建物など、少し都会的な美しさが通りの景観を引き立てています。(堀川・S邸)



赤レンガの上にマツを重合わせた斬新な生垣が昔ながらの農家住宅を現在につなげています。(堀西・Y邸)

庭先演出部門



納屋の竹壁を活用したプランターによる花の演出は、道行く人々を楽しませています。(渋沢・I邸)



隣接する二世帯の住宅が庭を共有し、通りに対して開放感のある庭づくりがなされています。(萩が丘・I邸)



通りに面する塀と塀との間に植えられた植木が楽しい印象を与えています。(堀山下・K邸)

空間創出部門



通りに面する限られた敷地に工夫して配置した樹木やプランターが、人々の目を楽しませています。(菩提・T邸)



庭木が不足し、コンクリートで覆われがちな敷地をプランターの設置で工夫しています。(今泉台・M邸)



駐車スペースを確保しつつ、プランターの配置により効果的な演出を行っています。(今泉台・A邸)

選考の経過



昨年11月3日の「市民の日」の会場で写真パネルを展示して行われた投票では、来場した約1000人の皆さんに御協力いただきました。



景観まちづくり市民会議では、すべての候補を現地調査し、お住まいの方にお話を聞くなどして、投票の結果とあわせて幅広い視点で選考しました。

第1回・第2回の生活美観大賞

第1回(庭先を美しく演出している住宅)



大賞を受賞した渡邊邸(今泉台)。周辺でも「見せる庭づくり」が積極的に行われています。

第2回(景観に配慮した店舗)



大賞を受賞したくりはら(渋沢)。昔ながらの建物を活用し、暮らしの「思い出」を現在につないでいます。